

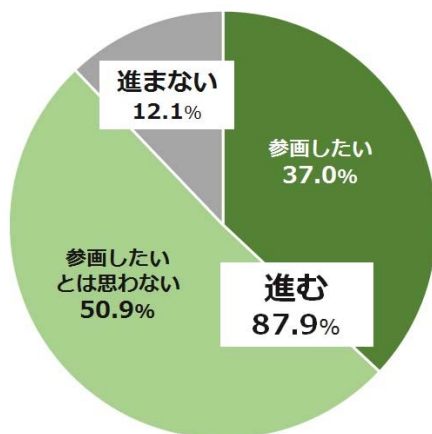
－ MedPeer会員医師へのアンケート調査 －

「遠隔医療は進むか？」について、 医師の最多回答は「進むと思うが、自分は参画したくない」

医師10万人以上（国内医師の3人に1人）が参加する医師専用コミュニティサイト「MedPeer（メドピア）」（<https://medpeer.jp>）を運営するメドピア株式会社（東京都渋谷区、代表取締役社長：石見 陽）は、会員医師を対象に、「遠隔医療は進むか」についてのアンケートを実施いたしました。以下、結果をご報告します。

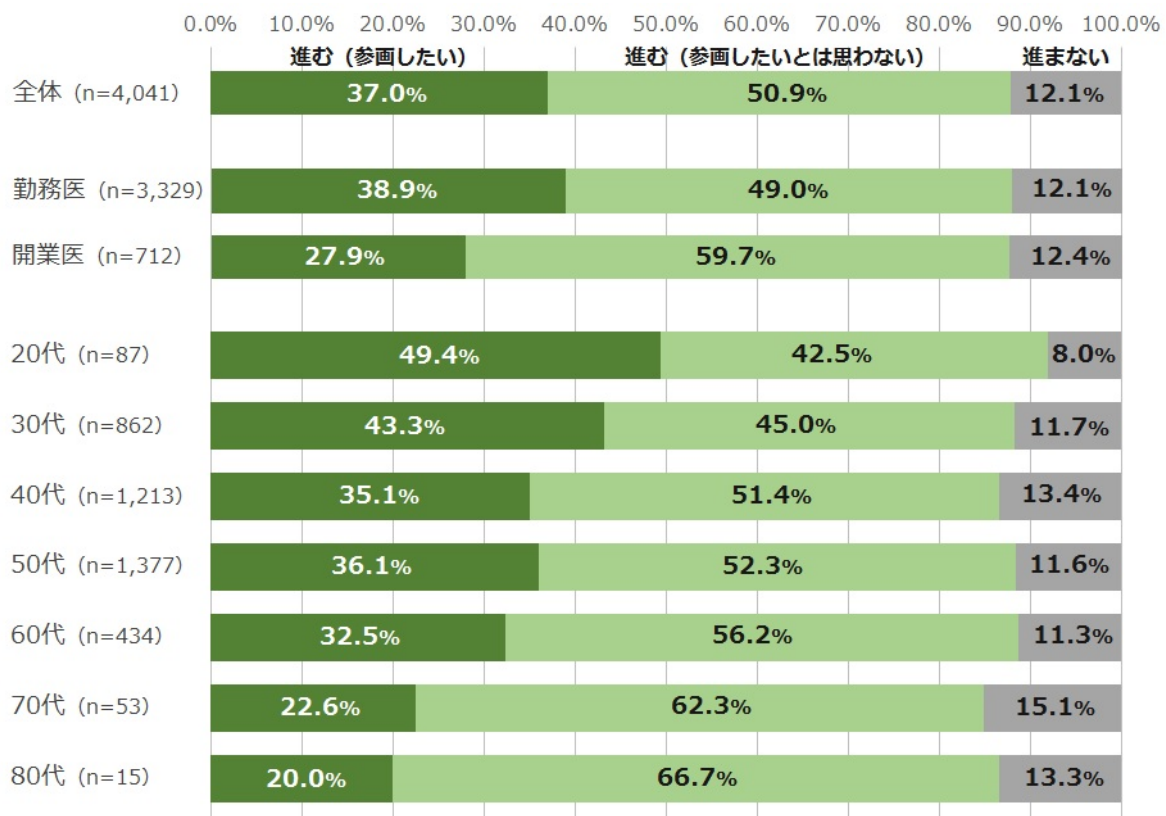
■ 調査結果：「遠隔医療は進みますか？」

（回答者：MedPeer会員医師4,041人、調査期間：2016/3/16～2016/3/22）



順位	回答	回答数 (人)	占有率
1	進む (参画したいとは思わない)	2,056	50.9%
2	進む (参画したい)	1,495	37.0%
3	進まない	490	12.1%
	合計	4,041	100.0%

■ 勤務医・開業医別および年代別の結果



■サマリー

- 「遠隔医療は進むか？」の質問に対し、**4,041人の医師が回答**をした。結果、「進む（参画したいとは思わない）」が50.9%で最も多く、次いで多かった「進む（参画したい）」の37.0%と合わせて計87.9%、**約9割の医師が「遠隔医療は進む」と回答**した。
また、遠隔医療が「進む（参画したい）」と答えた割合は、開業医よりも勤務医の方が大きく、年代別では年代が若いほど大きかった。
- 「進む（参画したいとは思わない）」（50.9%）の回答理由を見ると、全体では遠隔医療は進むと思うものの、自分自身で考えると、何かが起きたときの責任の所在やより多忙になることを懸念したり、やはり患者さんは自分で直接見て触れて診療を行いたい、という声が多く見られた。
- 「進む（参画したい）」（37.0%）の回答理由を見ると、過疎地など地方の医療や、医師の偏在への対策として遠隔医療に期待を寄せる声が多く、皮膚科や眼科、放射線科では既に遠隔診療が行われており、期待できるという声が多かった。
- 「進まない」（12.1%）と回答した医師は、一部の画像診断などでは進むかもしれないが、治療も含む医療となるとやはり直接患者を診ないと難しいという考えが多かった。

■回答コメント（一部を抜粋）

「進む（参画したいとは思わない）」 2,056件

- ・自分で直接触ったり聴いたりできない診療には抵抗がある。（50代、一般内科、勤務医）
- ・進むと思いますが、責任の所在を法的に整備しない限り、参画することは無いと思います。（50代、皮膚科、開業医）
- ・見落としのような過誤が発生した際の責任の所在など不明確な部分も多く、進むことは不可避であっても自分自身が参画したいとは思いません。（30代、一般内科、勤務医）
- ・医療相談レベルの診察（問診および受診指示のアドバイス、セカンドオピニオン）程度になりそうです。ネットである手軽さを売りにドクターショッピングするケースも多くなるのではないのでしょうか？保険適応外で良いと思います。（40代、神経内科、勤務医）
- ・進むとは思いますが、今の多忙さを考えるとどのように関わって行くのか想像できません。（50代、男性、勤務医）
- ・へたすると365日24時間待機状態になりかねない。（60代、放射線科、勤務医）
- ・アメリカとちょっと違います。専門医制度と報酬は決まっていない。自由競争になれない。（50代、アレルギー科、開業医）

「進む（参画したい）」 1,495件

- ・医師の地域偏在を改善する一助として遠隔医療は有効だと思います。（50代、リウマチ科、勤務医）
- ・北海道の田舎や離島では、必要に迫られていました。必ず普及すると考えますし、参画していきたいと考えています。（50代、精神科、勤務医）
- ・分野によっては強力な武器になると思います。（30代、アレルギー科、勤務医）
- ・制度面の問題は多々あるでしょうが、高齢化や過疎化を考慮すると進めざるを得ないかと。（30代、神経内科、勤務医）
- ・皮膚科や眼科、放射線科画像などの共有で、診断をお願いしたりしており、実際に治療方針もいただいております。（50代、整形外科・スポーツ医学、開業医）
- ・在宅医療と専門医との意見交換にはまだまだ余地があると思います。（40代、一般内科、勤務医）
- ・今後進む余地がありあまっています。けれど患者さんに触れない感覚は怖いとも思います。（30代、循環器内科、開業医）

「進まない」 490件

- ・患者さん本人を診察、診断するのは遠隔では無理。遠隔医療と言っても画像診断、血液検査などに限ったことだと思います。（60代、一般内科、勤務医）

- ・表情や声のトーンとか、家族とか総合的な判断が必要な科なので、進まないと思います。(40代、精神科、勤務医)
- ・病診連携としては進むと思いますが、治療としては限られると思います。(50代、一般内科、開業医)
- ・現在実施していますが、医師の側は他の業務に追われあまり積極的ではありません。(50代、一般内科、勤務医)
- ・実際システムは導入されましたが、宣伝の時しか使用していないのが現状です。(40代、一般外科、勤務医)
- ・人口は減り、過疎に向かうわけで、必要かどうかわかりません。(40代、一般外科、開業医)
- ・10年前大規模な遠隔医療計画に参加しましたが、中止させました。患者さんのニーズの把握違い、経済的問題、医師のクオリティなど問題がありすぎです。いつものように業者が儲かるだけで医者にはメリットありません。電話で十分です。健診等の画像診断だけは発展するでしょう。(50代、循環器内科、開業医)

■記事引用時のお願い

- ・医師専用コミュニティサイト「MedPeer」調べ、と明記ください。
- ・WEB上での引用に際しましては、「MedPeer」に<https://medpeer.jp>へのリンク付与をお願い致します。

メドピア株式会社について

社名：メドピア株式会社(<https://medpeer.co.jp>)

代表者：代表取締役社長 石見 陽 (医師・医学博士)

設立：2004年12月

運営サービス：医師専用サイト「MedPeer(メドピア)」
(<https://medpeer.jp>)

メドピア株式会社は、「Supporting Doctors, Helping Patients.」を理念として、現在10万人以上の医師（国内医師の3人に1人）が参加する医師専用サイト「MedPeer」を運営しています。医師同士が臨床現場で得た知見を「集合知」として共有する場を提供することで、医師の診療を支援するとともに、MedPeerの医師会員および集合知を源泉として、製薬企業をはじめとした企業に対して医師向けのマーケティング支援サービスを提供しています。